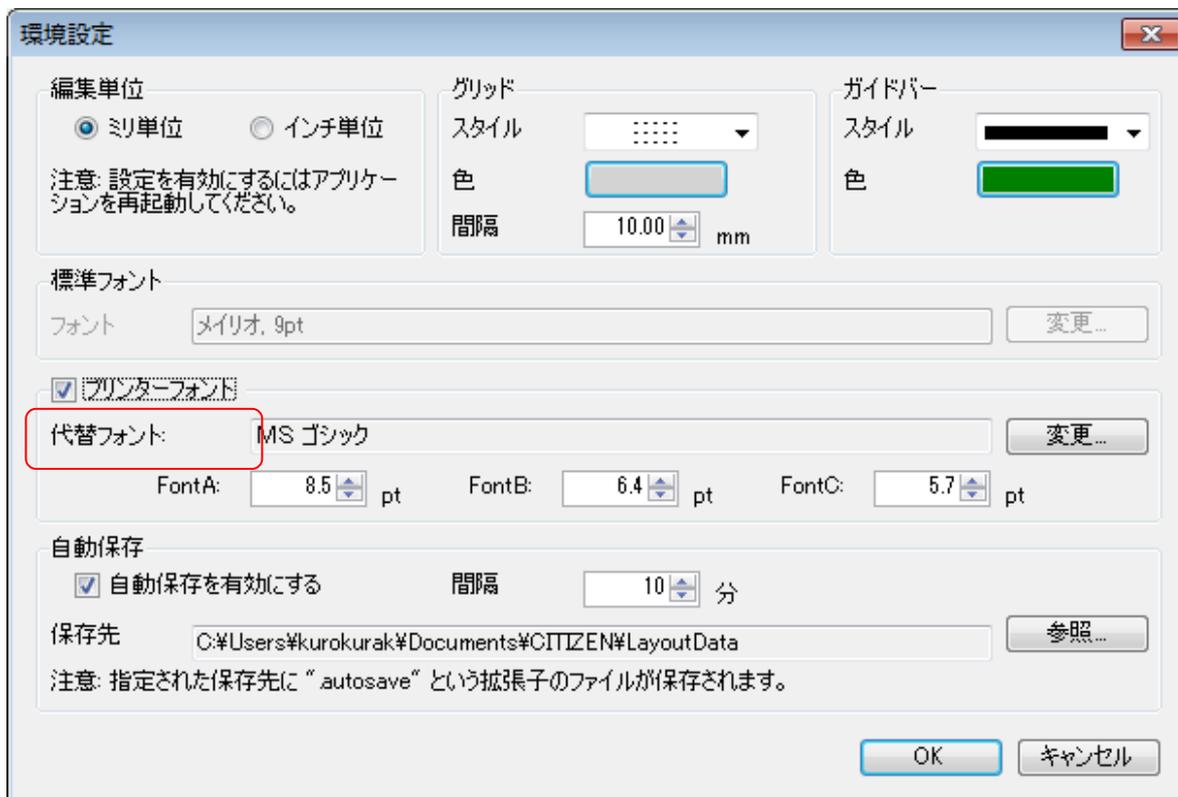
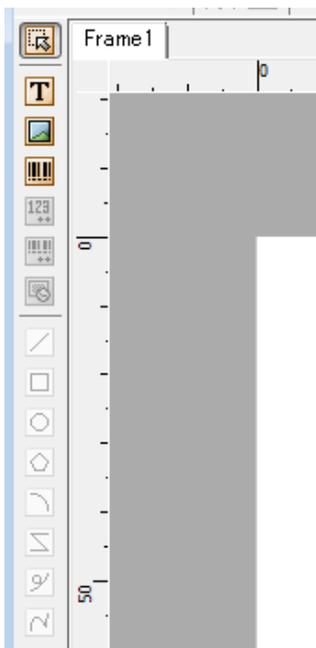


Android 用設定と追加作業

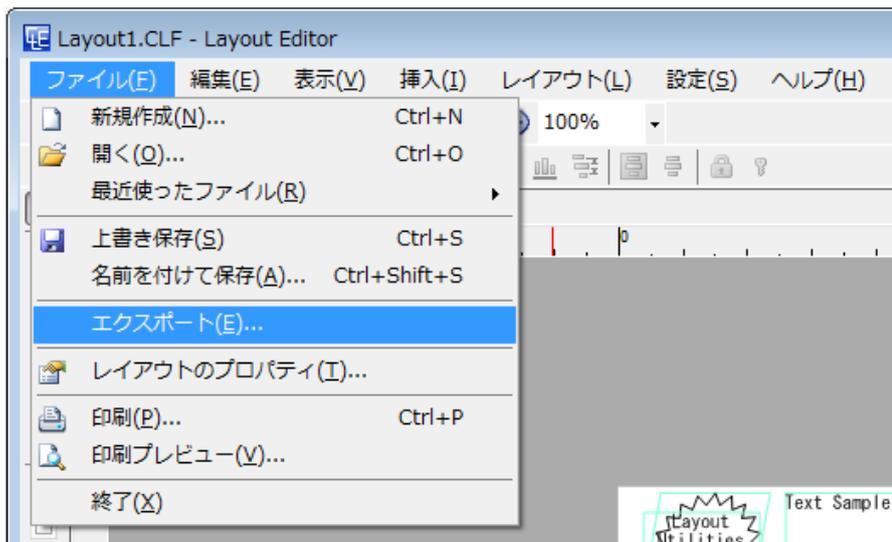
Android 用には、レイアウトエディター上のメニューの設定→環境設定にてプリンターフォントを選んでください。画面上は代替フォントが使われます。



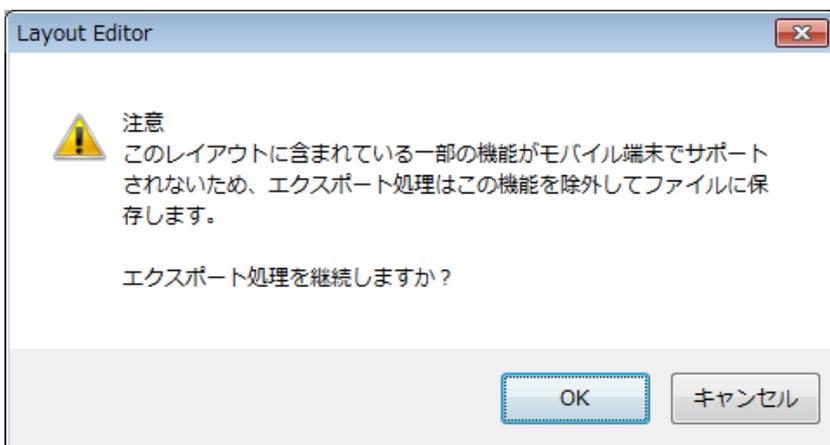
この設定により、機能選択の部分では、テキスト、バーコード、イメージ以外は使えなくなります。バーコードの種類もプリンターがサポートしているものに限られます。



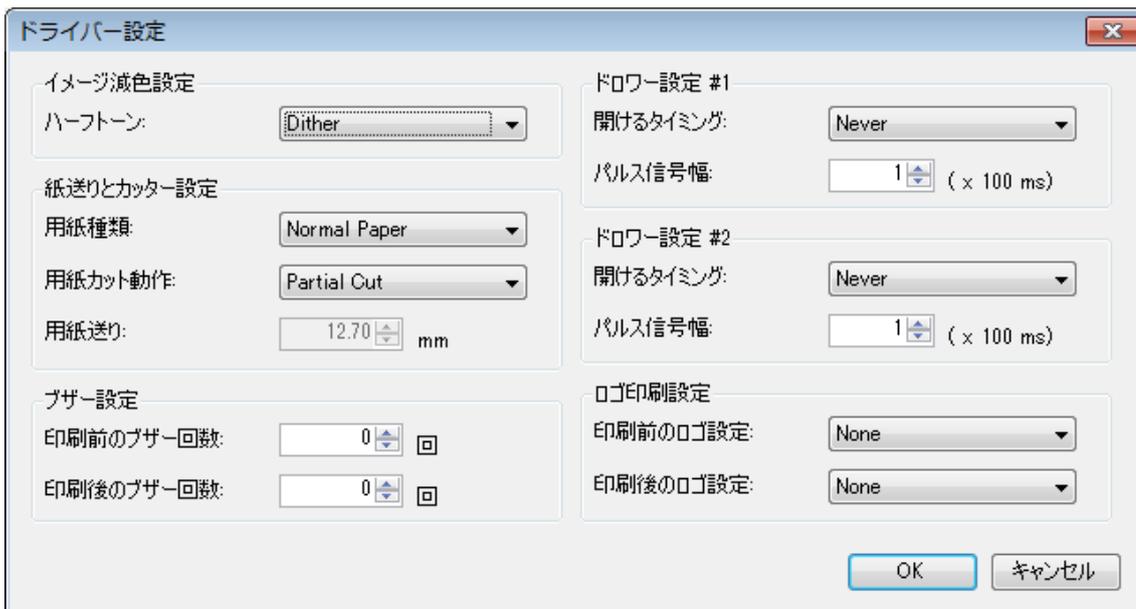
レイアウトが決まったら、新しく出来たエクスポートという作業を行います。
メニューからファイル→エクスポートを選びます。



下の注意メッセージが出るので、OK を押します。



これにより、下のダイアログが表示されます。



WindowsにてWindowsドライバーの設定に依存して印字する場合に比べ、Androidでの印刷では、不足する機能があります。この画面で不足するカット、ドロワー、ブザーなどの機能を設定し、OKを押すと、選択した機能の情報が追加されたレイアウトファイルが生成されます。

従来のレイアウトエディターのファイルはCLFという拡張子ですが、エクスポートされたファイルの拡張子はCLFXとなります。

CLFXはエクスポートにより生成されるファイルであり、CLFXをレイアウトエディターへ読み込むことは出来ません。レイアウトのデータは従来通りCLFで保存、読み込みをします。ドライバー設定画面で追加した設定はどこにも保存されないため、毎回エクスポート時に設定する必要があります。

このCLFXファイルをAndroidアプリの開発のプロジェクトに追加し、サンプルプログラムを参照して頂いて、レイアウトファイルを使った印刷機能をアプリに実装して頂きたいと思っております。

印刷機能自体に関し詳しい情報が必要な場合は、POS Printer用Android SDKという印刷機能用のSDKのプログラミングマニュアルが別にありますので参照ください。

<http://www.citizen-systems.co.jp/support/download/printer/sdk/index.html#android>